

縦にのび、生き延びる

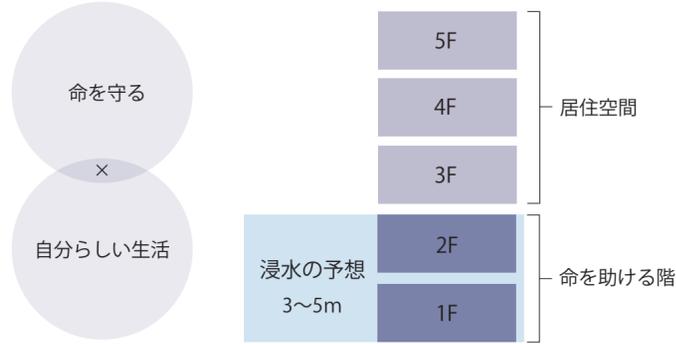
— スタイホームを自分らしく生きるための住宅 —

■コンセプト

この提案では「命を守ること」と「自分らしい生活を送る」ことを柱として考えた。

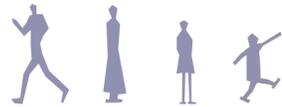
近年、日本各地で自然災害が増え、他人事ではなくなって来ている。今回設定した敷地も、近くを流れる二河川の影響を受け、建物の2階相当である3~5mの浸水被害が推定されている。そこで3階以上に生活に必要な機能を入れ、災害発生時に命を守ることができるようにする。

また、コロナ禍で外出する機会が減り、今までのような生活を送ることは難しくなった。壁に囲まれた従来の住宅ではアウトドアの人にとっては退屈で窮屈である。しかし、気兼ね無く外出することも出来ない。そこで、家の中でも外出できないストレスを感じないよう開放的な空間に動きと余白を作った。従来の箱型住宅に一石を投じる提案である。



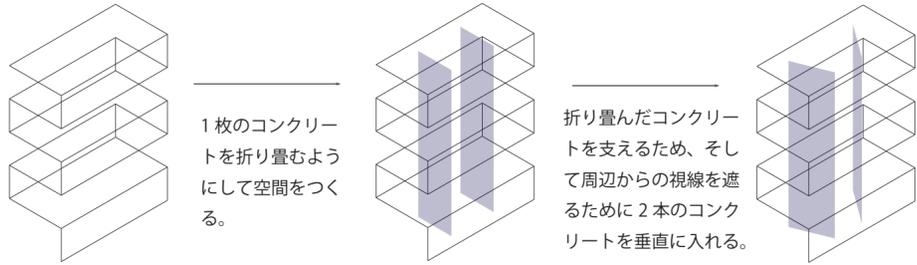
■住民像

アウトドアな4人家族。
コロナ禍の影響で外出せずに家族で楽しめるマイホームを求めている。以前は週末に旅行やキャンプへよく出かけていたが、マイホーム購入を機にコンパクトな生活に変えた。



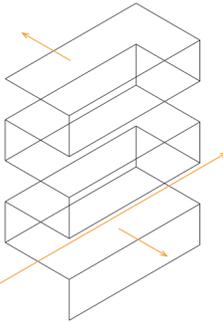
- ・父 (43) サイクリングが趣味のサラリーマン
- ・母 (41) 洗濯が大好きで在宅ワークをしている
- ・中学生の長女
- ・小学校中学年の長男

■ダイアグラム



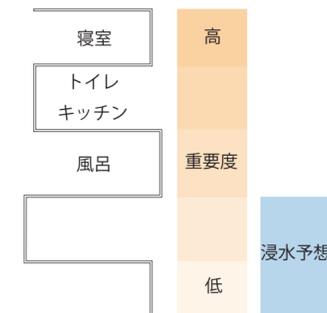
■要素

□開放感を生む躯体



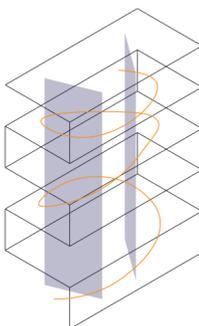
道から奥に貫く空間と折り畳まれた形によって各階交互に生まれる左右の空間により開放感が生まれる。一つの階につき、三方が解放される。

□機能の重要度から考えた配置



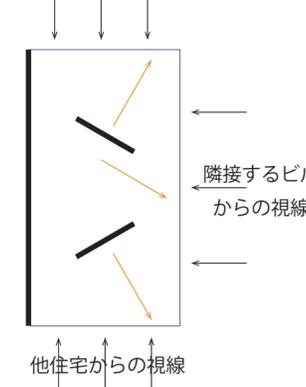
命を守るために必要な機能を3階以上に配置する。特に、住民全員の寝室を最上階に置くことで、寝ている間も安心して過ごせるようになる。

□動線を生み出す2本の柱と階段



斜めに入った柱とその周りに配置した階段によって、2本の柱を回るように上の階へのぼっていく。全ての部屋を通るようにすることで、5層もある空間の中で孤立することなく家族の動きを感じながら生活できる。

□近隣住民とずらした視線



2本の斜めの柱に合わせて家具や機能を入れることで、道に対して斜めに生活することになる。すると、隣の建物と距離が近くても視線を遮り、プライバシーを守ることが出来る。

■敷地

広島県呉市中心部。
敷地周辺は平地が広がり、敷地の東側には二河川が流れている。

